

●5月9日(月)使徒言行録21:17～26 エルサレムでのパウロ

21:17 わたしたちがエルサレムに着くと、兄弟たちは喜んで迎えてくれた。

21:18 翌日、パウロはわたしたちを連れてヤコブを訪ねたが、そこには長老が皆集まっていた。

21:19 パウロは挨拶を済ませてから、自分の奉仕を通して神が異邦人の間で行われたことを、詳しく説明した。

21:20 これを聞いて、人々は皆神を賛美し、パウロに言った。「兄弟よ、ご存じのように、幾万人ものユダヤ人が信者になって、皆熱心に律法を守っています。

21:21 この人たちがあなたについて聞かされているところによると、あなたは異邦人の間にいる全ユダヤ人に対して、『子供に割礼を施すな。慣習に従うな』と言って、モーセから離れるように教えているとのこと。

21:22 いったい、どうしたらよいでしょうか。彼らはあなたの来られたことをきくと耳にします。

21:23 だから、わたしたちの言うとおりにしてください。わたしたちの中に誓願を立てた者が四人います。

21:24 この人たちを連れて行って一緒に身を清めてもらい、彼らのために頭をそる費用を出してください。そうすれば、あなたについて聞かされていることが根も葉もなく、あなたは律法を守って正しく生活している、ということがみんなに分かります。

21:25 また、異邦人で信者になった人たちについては、わたしたちは既に手紙を書き送りました。それは、偶像に献げた肉と、血と、絞め殺した動物の肉とを口にしないように、また、みだらな行いを避けるようにという決定です。」

21:26 そこで、パウロはその四人を連れて行って、翌日一緒に清めの式を受けて神殿に入り、いつ清めの期間が終わって、それぞれのために供え物を献げることができるかを告げた。

*パウロと共に旅をしている仲間が必死に止めるのも聞かず、パウロは危険が待ち受けているエルサレムへ到着します。今までの自分の奉仕を通して神さまが、異邦人の間でどれだけ偉大なみわざを示してくださったのかを大胆に証ししたいという思いのほうが強かったのです。

●5月10日(火)使徒言行録21:27～36 パウロ逮捕される

21:27 七日の期間が終わろうとしていたとき、アジア州から来たユダヤ人たちが神殿の境内でパウロを見つけ、全群衆を扇動して彼を捕らえ、

21:28 こう叫んだ。「イスラエルの人たち、手伝ってくれ。この男は、民と律法とこの場所を無視することを、至るところでだれにでも教えている。その上、ギリシア人を境内に連れ込んで、この聖なる場所を汚してしまった。」

21:29 彼らは、エフェソ出身のトロフィモが前に都でパウロと一緒にいたのを見かけたので、パウロが彼を境内に連れ込んだのだと思ったからである。

21:30 それで、都全体は大騒ぎになり、民衆は駆け寄って来て、パウロを捕らえ、境内から引きずり出した。そして、門はどれもすぐに閉ざされた。

21:31 彼らがパウロを殺そうとしていたとき、エルサレム中が混乱状態に陥っているという報告が、守備大隊の千人隊長のもとに届いた。

21:32 千人隊長は直ちに兵士と百人隊長を率いて、その場に駆けつけた。群衆は千人隊長と兵士を見ると、パウロを殴るのをやめた。

21:33 千人隊長は近寄ってパウロを捕らえ、二本の鎖で縛るように命じた。そして、パウロが何者であるのか、また、何をしたのかと尋ねた。

21:34 しかし、群衆はあれやこれやと叫び立てていた。千人隊長は、騒々しくて真相をつかむことができないので、パウロを兵営に連れて行くように命じた。

21:35 パウロが階段にさしかかったとき、群衆の暴行を避けるために、兵士たちは彼を担いで行かなければならなかった。

21:36 大勢の民衆が、「その男を殺してしまえ」と叫びながらついて来たからである。

*偏見や思い込みで誰かを責めたり、相手の立場や気持ちを考えずに自分の思いのままに物事を判断しようとする、神を見失い視野が狭くなり正確な判断ができません。このようなことがないように「主の思いは何か」を求め祈るとき、知恵が与えられ心の目が開かれ人の思いに翻弄されず生きることができるのです。

●5月11日(水) エゼキエル 13:8~12 偽りの預言者

13:8 それゆえ、主なる神はこう言われる。お前たちはむなしいことを語り、欺きの幻を見ているので、わたしはお前たちに立ち向かう、と主なる神は言われる。

13:9 わたしの手は、むなしい幻を見る預言者たちと、欺きを占う占い師たちに向けられる。彼らはわたしの民の集いに加えられず、イスラエルの家の記録にも記されず、イスラエルの土地に入ることもできない。そのとき、お前たちはわたしが主なる神であることを知るようになる。

13:10 平和がないのに、彼らが『平和だ』と言ってわたしの民を惑わすのは、壁を築くときに漆喰を上塗りするようなものだ。

13:11 漆喰を上塗りする者に言いなさい。『それは、はがれ落ちる』と。豪雨が襲えば、雹よ、お前たちも石のように落ちてくるし、暴風も突如として起こる。

13:12 壁が崩れ落ちれば、『先に施した上塗りはどこに行ったのか』とお前たちは言われるに違いない。

*にせ預言者の語る気休めの「平和」は、欠陥だらけの壁をしっくいの上塗りするようなものです。このような手抜き工事は突然の大雨や雷、強風が吹けば「それは、はがれ落ちる」。にせ預言者を頼らなくても本当の「平和」は神さまから十分過ぎるほどいただけます。

●5月12日(木) フィリピ 3:5~6 律法に関してはファリサイ派の一員

3:5 わたしは生まれて八日目に割礼を受け、イスラエルの民に属し、ベニヤミン族の出身で、ヘブライ人の中のヘブライ人です。律法に関してはファリサイ派の一員、

3:6 熱心さの点では教会の迫害者、律法の義については非のうちどころのない者でした。

*正統なユダヤの家系の出身のパウロは、出身・学問・地位などすべてにおいて、人々に認められ出世街道まっしぐらでした。キリストに出会うまでは・・・

●5月13日(金) 使徒言行録 1:8 イエスの証人とされて

1:8 あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサムリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」

*イエスさまが始められた福音宣教の働きを、使徒・弟子たちに委ねられました。聖霊の助けを受けて「キリストの証人となる」旅のスタートです。

●5月14日(土) 使徒言行録 22:22~29 パウロと千人隊長

22:22 パウロの話をごこまで聞いた人々は、声を張り上げて言った。「こんな男は、地上から除いてしまえ。生かしてはおけない。」

22:23 彼らがわめき立てて上着を投げつけ、砂埃を空中にまき散らすほどだったので、

22:24 千人隊長はパウロを兵営に入れるように命じ、人々がどうしてこれほどパウロに対してわめき立てるのかを知るため、鞭で打ちたたいて調べるようにと言った。

22:25 パウロを鞭で打つため、その両手を広げて縛ると、パウロはそばに立っていた百人隊長に言った。「ローマ帝国の市民権を持つ者を、裁判にかけずに鞭で打ってもよいのですか。」

22:26 これを聞いた百人隊長は、千人隊長のところへ行って報告した。「どうなさいますか。あの男はローマ帝国の市民です。」

22:27 千人隊長はパウロのところへ来て言った。「あなたはローマ帝国の市民なのか。わたしに言いなさい。」パウロは、「そうです」と言った。

22:28 千人隊長が、「わたしは、多額の金を出してこの市民権を得たのだ」と言うと、パウロは、「わたしは生まれながらローマ帝国の市民です」と言った。

22:29 そこで、パウロを取り調べようとしていた者たちは、直ちに手を引き、千人隊長もパウロがローマ帝国の市民であること、そして、彼を縛ってしまったことを知って恐ろしくなった。

*パウロはユダヤ人の怒りによって今にも殺されそうな危機的状況ですが、落ち着いています。それはパウロが「わが道を行く」生き方から「主の道を行く」生き方に回心したからです。たとえ死に直面するようなときも、苦しみや悲しみのときも、慰めといやしを与えられて、喜びと平安のうちに歩むことができる「主の道」を共に歩んでいきましょう。

●5月15日（日）使徒言行録 22：30～23:11 神の前で、人々の間で

22:30 翌日、千人隊長は、なぜパウロがユダヤ人から訴えられているのか、確かなことを知りたいと思い、彼の鎖を外した。そして、祭司長たちと最高法院全体の召集を命じ、パウロを連れ出して彼らの前に立たせた。

23:1 そこで、パウロは最高法院の議員たちを見つめて言った。「兄弟たち、わたしは今日に至るまで、あくまでも良心に従って神の前で生きてきました。」

23:2 すると、大祭司アナニアは、パウロの近くに立っていた者たちに、彼の口を打つように命じた。

23:3 パウロは大祭司に向かって言った。「白く塗った壁よ、神があなたをお打ちになる。あなたは、律法に従ってわたしを裁くためにそこに座っていながら、律法に背いて、わたしを打て、と命令するのですか。」

23:4 近くに立っていた者たちが、「神の大祭司をののしる気か」と言った。

23:5 パウロは言った。「兄弟たち、その人が大祭司だとは知りませんでした。確かに『あなたの民の指導者を悪く言うな』と書かれています。」

23:6 パウロは、議員の一部がサドカイ派、一部がファリサイ派であることを知って、議場で声を高めて言った。「兄弟たち、わたしは生まれながらのファリサイ派です。死者が復活するという望みを抱いていることで、わたしは裁判にかけられているのです。」

23:7 パウロがこう言ったので、ファリサイ派とサドカイ派との間に論争が生じ、最高法院は分裂した。

23:8 サドカイ派は復活も天使も霊もないと言い、ファリサイ派はこのいずれをも認めているからである。

23:9 そこで、騒ぎは大きくなった。ファリサイ派の数人の律法学者が立ち上がって激しく論じ、「この人には何の悪い点も見いだせない。霊か天使かが彼に話しかけたのだろうか」と言った。

23:10 こうして、論争が激しくなったので、千人隊長は、パウロが彼らに引き裂かれてしまうのではないかと心配し、兵士たちに、下りて行って人々の中からパウロを力づくで助け出し、兵營に連れて行くように命じた。

23:11 その夜、主はパウロのそばに立って言われた。「勇気を出せ。エルサレムでわたしのことを力強く証したように、ローマでも証しをしなければならない。」

*ローラ宣教師の霊的形成セミナー（2021年5月開催）で「ゆっくり聖書を2回読み、その中の『ピカピカした』言葉やフレーズを心に留めて祈り、沈黙（黙想）する。」というレクティオ・ディヴィナ（霊的読書）を学びました。私は今日の聖書箇所の中で「わたしは、今日に至るまで、あくまでも良心に従って神の前で生きてきました。」というパウロの告白が『ピカピカした』のですが、みなさまは、どの箇所が『ピカピカ』しましたか？